



今回は、ACADE見IC特別篇と題しまして、尾池和夫総長にインタビューしました。お忙しい中、取材に時間を割いていただきました先生に、厚く御礼申し上げます。
(ぶっち)

総長の生活

— 1日、または1週間のスケジュールを教えてくださいませんか？

そら、覚えてないわな～(笑)。
秘書室の方が4人いて、私のスケジュールを管理していますが、私はほとんど知らんのですね。さっき何やってたか昨日何やったかと言われても、全部覚えてると次のことができなくなってしまうので。えー、今日ぐらいは……覚えてないな。この直前は覚えてんですけどね。(取材のため)2時まで帰ってくるって言うんで1時15分ぐらいに帰ってきたかな。で、45分ほどちょっと書類の処理を……。だいたい1時間も部屋空けてますと、どどーっと書類がきとるんですね。それを時間があるときに処理します。その前はねえ、農学研究科のキャンパスに行ってフィールド科学研究センターの若手の教員たちと、お昼ご飯を食べながらミーティングをやってたんです。私たちが発信してる情報が若手の教員や学生さんになかなか届いてないという感じるもんですから、若手教員と直接話すためにランチミーティングってのをやるうってね。そう考えて行ったんですが、案の定こっちが思っていることがあまり

尾池総長プロフィール

1940年	東京都生まれ
1959年3月	私立土佐高等学校卒業
1963年3月	京都大学理学部地球物理学科卒業
1963年4月1日	京都大学防災研究所助手
1972年	京都大学理学博士
1973年5月16日	京都大学防災研究所助教授
1988年12月1日	京都大学理学部教授
1995年4月1日	京都大学理学研究科教授(改組)
1997年4月1日	京都大学理学研究科長・理学部長
2001年4月1日	京都大学副学長(教育・学生担当)
2001年4月1日	京都大学体育指導センター所長
2003年12月16日	京都大学総長



伝わってないことがよくわかりました。
で、その前はね……うーんその前は何かやったかな。朝からここでずっと次から次から入ってくる人との打ち合わせをやってまして。5分単位ぐらいで、いろんな人のお相手を。私は朝は割合ゆっくりと出勤させてもらうことにして、9時半頃に来てるんです。夜はパーティがあったり挨拶をしにいたりでもう果てしなく続きますからね。
まあ、だいたい30分おきに違うことをやってると思っていただいたらいいんですけどね。外からのお客さんに会うこと、そして学内重要事項の決裁をすることが重要な仕事です。それと、よそへ行って会議に出たり、京都大学が主催するシンポジウムに行ったり、最初の挨拶をしたりとか、出張も多いです。あと、学内の



重要な会議は私が議長になってますので、それらの会議にも出ます。だいたいそんなところでしょうかね。
ほかには原稿を書くとかインタビューを受けるとかいう仕事もあってね。よくインタビューが新聞記事なんかに出てきますけど。京大の顔として広報役を務めるというのも大きいですから、その相手をするというのがありますね。

はみだしすてーじ

もーいーくつねーるとー夏休み？
⇒夏休みには一ひきこもりー、一日ゲームであそびましょー。

(農・1 くあらっこ)
(学年は投稿当時のものです；編)

——学生との関わりについてはどう感じ
ていらっしゃるんですか？

ものすごく距離が遠くなった気がする
んです。ここの部屋にいます。まず、普
段こうやってお話する機会が減多にない
でしょ。しょうがないので、月1で夜2
時間くらい学生と話すという企画をこっ
ちから仕掛けたんです。キャンパスミー
ティングっていう企画なんですけどね。
学部・研究科ごとにやってまして、もう

10組くらいやってます。そこでね、学
部長に同席してもらってやるんですけど
も、学生から学部長に直接言いにくいこ
とも私に向かって言うから、実は学部長
にも言ってることになる。これ非常に御
利益があるんですね。

まあそれが学生と話すほとんど唯一の
機会だろうと思うんですけどね。

去年の年末は熊野寮でコンパやるから
来いって言われて忘年会に行ってきたけ
どね。こんなとこ総長来たのなんて前代

未聞やとか言うてたけど、呼んどいてそ
んなこと言うなよと(笑)。まあそうい
うお呼びがかかればできるだけ、参加さ
せてはもらいますけどね。

あとは、サロントークっていうのを時
計台のサロンでやりますけども、あそこ
はまあ職員も学生も参加してますね。
そこにはなるべく参加してますし、未来
フォーラムなんかでも、学生がようけ来
てるときには後で立ち話なんかすること
もあります。



なんとなく

——選挙で総長に選ばれたときは悩ま
れましたか？

いや、悩んでもしょうがない(笑)。
悩むことと違って、決まることです
から。ビックリはしますけども。なんじゃ
こりゃあと。制度だからしょうがないね。
私が断固拒否したりしたら、みんなの票
が死んでしまう訳じゃないですか。みん
なが考えてることが駄目になる、京都大
学が崩れるわけだから、そこまではでき
んわね。腹くくってやるしかしょうがな
いという制度ですから。だからもう、何
とかなるやろと。僕は楽観的でね、何と
かなるやろって思うほうですから。そう
やってまあ、まだ今んとこ何とかなっ
てますけどね。そういうもんなんですよ。

みなさんこれから自分の人生をいろ
いろ歩いていかれるでしょうけども、僕
はずっと振り返ってみてもそんなにねえ、
こう悩んで何かを一生懸命変えたとか、
あそこへどうしても行きたいから努力し
て行ったとかそういう経験がないんです
よ。なんとなくね、決まってくんです
ね。なんかようわからんけど京大行きた
いとか思ったんですね。そして受験した
ら通ったから来たんだけど。理学部で
すから最初、分野決まってるんですよ。
3年生になるときに、学科に所属する
というのがあって、ここ人が少ないなと
思って地球物理に。そしてまた、4年生
になるとき卒論何やるかなと思って、地



◀総長室には黒豹の絵が飾られている。

震は1人もいなかったの、そこに行っ
たんです。「あんまり人のいるところは嫌
や」って言うてね。それで、卒業して
「どうしようかな、大学院受けようかな」
と思って、入試を申し込んで。そしたら
当日になって先生が「ちょっと出張して
この仕事してきてくれ」って。「いやで
も入試の日やからあきません」って言っ
てたら、「いや助手になったらええがな」
とか言われまして。はあ、と思って、「ほ
んならまあありますわ」と試験を受けず
に4月から助手になって。そんな調子で
ね。いや、そのころね、助手って大変な
仕事ですよ、走り使いみたいなもんや
から。大学院行きたいと思ってたんだ
けど、まあ給料貰うほうがええかなって
思った。それで行ってたら、「助教授にな
らんか」と言うから、なって。で、ぼー
っとしてる間に、「理学部の教授になっ
てくれ」と言われて、「ハイ」言うて。次
は副学長やってくれと言うから、「いい
でしょう」と。そういう人生ですから。そ
うやってるうちに選挙があつて、総長に。

これやらせてくださいとかあまり
頼んだことなく、みんな言わ
れてやってきてますから。だから
言われてやるもんやと思ってるん
ですわ、仕事というのは。で、そ
れで、結構何やっても面白いん
ですわ。いや、総長はあまり面白
くないかな(笑)。

研究の仕事はやって面白いで
すからね、ラッキーなことに。で、
それだけ面白い仕事やらしても
らったんだからとにかく、みな
さんに、若い研究者やら学生諸君に面白
い研究をやってほしいからね、これはお返
しやと思って。まあ精一杯頑張らな
きゃと思ってるわけです。

うん。今までずっと頼まれて何かや
ってるという感じなんですけど。今
からそういうのでは仕事やってい
けんと思ってますよ。世界にこう、
自分を売り込んでね。積極的にア
プローチして自分の分を勝ち取
っていかないとやっていけない
と思う。それは競争に勝つためには
必要だと思うんですけども。けど
それだけに必死になってやりすぎ
ると失敗しますんでね、人間。研
究者にもいろんな不正をやった
りする人が出てきてるでしょ？ や
っぱり競争に無理に勝とうとす
るとね、そういうことになります
から。もうちょっと自然体でや
ったらいいと思いますけどね。そ
ういう意味では僕自身は幸せで
すね、なんとなく人に頼まれてや
り出したことが面白かったし、飯
は食えるしね(笑)。ラッキーなん
ですよ、そういう意味では。

はみだし
すてーじ

来年の春には平成生まれが入ってくるんですよ。はあ…。
⇒大丈夫。全員落ちれば入ってきませんよ。

(文・2 かえるだらけ)
(はあ……；編)



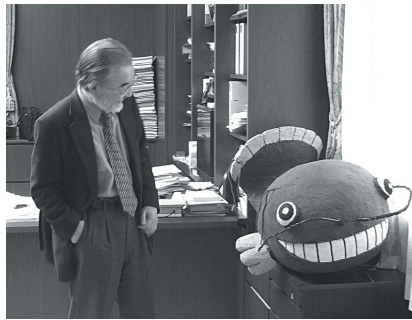
地震の研究

—じゃあ、次は、その研究のお話を
していただけますか？

うん、前の研究ね。あの、京大に入
った頃は、何となく京都っていう土地が好
きだったんですね。やっぱり1200年の
古都の養われた文化に魅力があったんだ
と思いますけど。京都に来て、せっせと
歩き回って、いい景色やなと思ってずっ
と見てました。山に囲まれた盆地があっ
てね、その中に奈良も含めて盆地の文化
があるわけでしょ？ その盆地ができる
仕組みがわかってきたというのが私の学
問の経歴です。最初はなぜ山に囲まれた
盆地があるのかわからなかったんですね。

60年代は地震の仕組みがわかってき
た時代でね。地震は岩盤が割れてずれる
んだということ、それが繰り返し繰り返
しずれて活断層という傷跡ができること
がだんだんわかってきた。70年代にそ
ういうことが見えてきて、80年代には
ほぼ間違いなくって言えるようになって。

ですが実際調査するにはお金がものす
ごくかかるんですね。お金がかかるとで
きない。そんな中、神戸の大震災が起こっ
て、「活断層がずれて直下の地震を起こし
た」という認識がみんなにできたんで



◀執務室にはなぜかなまらずがいる。

すね。それで調査に税金を使ってよろし
いというコンセンサスが得られたわけ
です。私も調査委員会の委員長をいっぱい
やってね、京都も大阪も調べました。

で、そうすると確かにここに活断層があ
ってこういう風にずれていて、そのず
れによって、山と盆地ができるって
いうことが証明されたわけですね。

で、京都のこの辺は200m堆積層が溜
まってるとか、伏見は600mの厚さの土
が溜まってるとかわかってきて、京都の
景色の仕組みがはっきり認識できた。琵琶
湖より豊富な水がこの京都盆地には溜
まっているんです。そこに茶の湯が生ま
れたり、お豆腐や湯葉、美味しい日本酒
ができたり。で、現在の工業がものす
ごく地下水使って半導体作ってますよね。
ほかにも、断層のずれのところが崩れや
すいから補強するために竹を植えてるん
やね。で、その竹があるからうちわとか

扇子が京都の産業として発達して。あと
和紙もそうでしょ？ 水が綺麗でないとい
けないから。そんな風に、今まで見て
た京都の文化が、全部結びついてきた。
それが非常に面白かったですね。

地下水がたっぷりある場所で育った文
化は西洋にはないんですね。大地がほと
んど動かない。のっぺんだらりとしたと
こだからね。だから、京都の文化はそれ
と違って、変動帯の文化っていうのがあ
るんだということを言い出したんです。

文学をやる人が、西洋の文学と京都に
生まれた文学との比較研究をやるん
ですけど、そういう大地が動かか動かんか
という観点から見た比較はないんですね。
だから文化系の人には面白がられます。
イギリスロマン派学会ってのが日本にあ
りまして、その会長をやってる英文学の
鈴木先生が、「学会やるから挨拶をして
くれんか」って言うからその話をしたん
ですね。ワーズワースの詩は大地が動か
んとて詠んだ詩だと。一方、こっ
ちの詩は全部大変動するところででき
てる。そこが根本的に違うんやという話
をしたら、えらいみなさん喜んでくれ
て、そういう話は初めてや、と言われ
ました。

結局、京都の文化っっちゃうのは、そ
ういうことがあるから独特のもんがあ
って、イギリスやアメリカの人から新
鮮に見える面があるんでしょね。き
つとね。



京都大学

—京都大学の特色はどのようなこと
にあると思ってらっしゃいますか？

大学に入ったときにはようわからん
かったんですけど、だんだんわかって
きました。法人化みたいな話が出てきた
ときに、やたらとみんなが自由の学風
って言う、という特色があるのかと思
って。前総長の長尾先生がどこかの
挨拶で、自由の学風、自由の学風
って7回言ったってね。僕はそのあ
との挨拶で『『自由という言葉
を忘れたとき、本当の自由である』
という言葉がある』って言ったん
です。

京大は自由の学風がある。ありがたい
ことにほかの大学にはそういうことが
ないんですよ。「東京大学は？」
って聞かれるとないでしょ？ 逆に
自由の学風って言ったら京大のこ
とだとみんなわかってくれる。こ
んな立派な言葉はないですよ。だ
からそれだけは守ってかないか
んですね。で、普段は忘れてると。
これが大事なんですね。いつも頭
で自由自由思ってるようになったら
不自由だからね。そんな感じで最
近重いんですよ。法人化もだいた
い軌道に乗って、みなさん新し
い制度がわかってきたので、もう
そろそろ自由の学風っていう言葉
を普段は忘れて。で、ほんとに自
由に研究ができるようになればいい
なあと考えてますけどね。

—任期の間にこれをやりたい、な
どの目標はありますか？

いやまあ一般論だけです。僕が思
ってるのは、リクエストがあっ
てこういうことをやりたいとい
うのがあれば、応援はします
けどね。「ボトムアップを基本
にしたリーダーシップで舵取り
をさせてもらいます」って、最
初に宣言してまして。ボトム
アップっていうのは、みんな
がリーダーシップを持つよう
に考えて欲しいっっちゃうこと
でね。私が、「向こうに行こう
行こう」ちゅうたって誰もつ
いてきません、この大学(笑)。
そんなもん無理やっちゃう
って。祇園祭の鉾に最初た
とえたんです。四条河原町で
向きを変え

はみだし
すてーじ

友達3人で作った恋人いない同盟の俺以外の2人が付き合いました。
⇒罰則とかないんですか？

(経・1 メゾピアノ)
(裏切り者には制裁を；編)

るんだけど、その方向転換にもものすごいエネルギーが要るんですね。それを辻回して言うんだけれども。その辻回しと同じように、法人化だけでも、その方向転換にもものすごいエネルギーが要るんで。無理をしたら絶対倒れるから、無理はしませんって言ったんですよ。今、108年

尾池総長と俳句

趣味で俳句をやっている尾池総長。氷室俳句会という同人俳句会に所属し、会が刊行する俳誌「氷室」に毎月投句をしていらっしゃる。始めたきっかけは、普段使っていない右脳を使うためだそうです。「でもそれはあとからつけた理屈だね。うん。別にそう理由はない」とのこと。俳句の面白さを尋ねると、「自分の目で、ちょうど写真を撮るみたいに瞬間をぱっと切り取って、自分の言葉で表現できますから。そこが面白いんですよ」との答えが返ってきました。



京大生へ

——京大生の印象を教えてください。

よそでもそう言うんですけどね、「最近の若い者は」ってよく言う人がいるんだけど、これはね、もう言い古された言葉だね。昔の人も「最近の若い者は」と言うて、プラトンも言ってたとかそういう話もいっぱいあります。そうじゃなくて、いつの世の中にもよう勉強する人たちがいて、京大の学生いうのはそういう人たちだと思ってるんですけどね。

で、たとえばね、あんまりこういうこと書いてもうたらいかんのかもしれんけども、この前大変な事件あったでしょ？で、「倫理教育をちゃんとしろ」みたいなことを言う先生もいるんだけどね。そんなことを聞いてたら大変なんですわね。みなさん大人として自分で自律してやってるわけですから、そんな教育が必要なんてことは僕からは口が裂けても言えないわね。そういう人たちを認めないことになるから、絶対それは言うたらあかんちゅうてね。そこが、やっぱり教育の基本なんです。で、必要な学問を教える。工学部の人、農学部の人、法学部の人、必要な学問体系は教えないといけない。それを伝えるのは我々の役目ですけど。

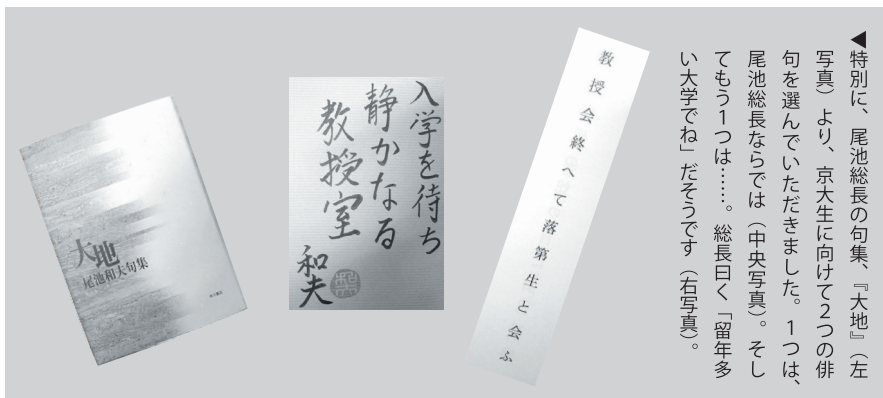
の歴史を持つてるわけですから自然体でいけます。「これをします」なんていうことは言わないです。だけど、新しいアイデアで面白いものがあつたら、その応援は一生懸命やります、と。

それと、教育シンポジウムというのを、先生を200人くらい集めて、夏、8月の

終わりにやってるんです。1泊2日で勉強会やるんですけどね。そこでも何回もおんなじようなこと言ってるんですが、この前はイギリスのことわざを引用したんです。「馬を川に連れて行くことはできるけど、水を飲むことはできない」ということわざがあるってね。たとえば学生が綺麗な水が飲みたいと思つたら、綺麗な水をいつも用意しておくのが先生の役目やと。やからマニュアルめくって飲ましたらいかんねん言うて。そういう話をしたことがあります。これをやりたいっていうときには、できるように一生懸命支援せんいかんけれども、あれやれこれやれと言つたって、それはやっぱりよくないでしょうね。

——最後に京大生にメッセージを。

京都大学で勉強するに当たって、どうか不便なこと、まずいとこがあつて、直したほうが良いと思つたことは遠慮なくsocho@mail.adm.kyoto-u.ac.jpにメールしてください。だいたい知つてると思うけど、まあ知らん人もいて。ときどき僕個人のHPを探してそこから書いてきてくれるんだけど。ちゃんとメールアドレスが用意してありますからそこに送ってください。新入生の人も含めて、一生懸命とにかく悔いのない勉強をしてくださいということをメッセージにしておきます。それしか言うことないもん(笑)。



◀特別に、尾池総長の句集『大地』(左写真)より、京大生に向けて2つの俳句を選んでいただきました。1つは、尾池総長ならではの(中央写真)。そしてもう1つは……。総長曰く「留年多い大学だね」だそうです(右写真)。

——ありがとうございました。

はみだし
すてーじ

次の不等式を解きなさい：

$$Fu < Li \text{ (1 year ago), } Fu > Li \text{ (these days)}$$

